

相互貸借マニュアル

相互貸借は一定のルールに従って行われており、そこにはいくつかのマニュアルが存在します。今回は、そのうちの代表的なものを取り上げてみました。

1. 相互利用マニュアル 第四版

日本医学図書館協会発行 1996年

相互貸借のマニュアルと言えばこれ、というくらい有名なものです。発行元は日本医学図書館協会ですが、近畿病院図書館協議会でも“このマニュアルを遵守して”と謳っており、このマニュアルに沿って相互貸借を行っていれば、だいたいの機関には対応できます。

2. 病院図書室デスクマニュアル

第10章 相互貸借 (p. 99-111)

病院図書室研究会発行 2001年

2001年春に発行されたばかりの一番新しいマニュアルです。病院図書室業務全般について解説されている図書ですが、その中で「相互貸借」のことも取り上げられています。最近の話題についても触れられており、そのまま実務に役立つ内容となっています。

3. 医学資料の整理と利用—病院図書室マニュアル—

7 相互貸借 (p. 259-279)

トシマ参考図書発行 1984年

(津田良成監修、近畿病院図書館協議会編集)

発行年は古いものの、今でも愛用者が多く、病院図書室の基本はこの本で勉強したという方も多いのではないでしょうか。FAX、CD-ROM、インターネットといった現在では当たり前になった機器が図書室に導入される以前に執筆された図書であり、現状にそぐわない内容も含まれていますが、変わらずに受け継がれていることも多く、“相互貸借とは”という基本について学ぶことができます。

その他、参考になる文献も紹介します。

1) 相互貸借と相互利用マニュアル改訂版

本郷洋子

日本病院会雑誌. 1997; 44 (5): 807-810.

前述の相互利用マニュアルの改訂委員会委員長により、相互利用マニュアルの紹介と解説がされています。裏話的なことも含まれており、マニュアルと併せて読むことで、より理解を深めることができます。

2) 相互貸借 (これからの病院図書室11)

及川はるみ

日本病院会雑誌. 1999; 46 (9): 1440-1446.

前述の病院図書室デスクマニュアルは、「これからの病院図書室」として日本病院会雑誌に連載されたシリーズが再編集されたもので、こちらは雑誌に掲載されたときのものです。マニュアルの購入が困難な方は、ぜひこちらだけでも目を通しておくことをお勧めします。

(文責: 春日井泉江/豊橋市民病院)